

第3回神奈川県流域下水道経営懇話会  
議事録

日時：令和2年11月4日（水）14：30～16：10

場所：Web会議（ZOOM）

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 出席者紹介
- 4 会長あいさつ
- 5 議事
  - (1) 第2回懇話会のご意見の対応について
  - (2) 神奈川県流域下水道事業経営ビジョンについて  
(主要施策による投資・財政の見通し、持続可能な事業運営に向けて)
  - (3) 今後の進め方について
  - (4) その他
- 6 閉会

【1 開会】

○県土整備局 河川下水道部 下水道課 流域下水道グループリーダー

【2 あいさつ】

○県土整備局 河川下水道部 下水道課 課長

【3 出席者紹介】

○県土整備局 河川下水道部 下水道課 流域下水道グループリーダー

【4 会長あいさつ】

○横浜市立大学 宇野教授

【5 議事 (1) 第2回懇話会のご意見の対応について】

意見なし

## 【5 議事 (2) 神奈川県流域下水道事業経営ビジョンについて】

(稲垣様)

質問：利用者の視点からみると、料金は上水道と下水道を一体的に徴収されているので、上水道の状況も合わせて紹介したほうが理解されやすいと思うが、そのあたりはいかがか。

(事務局)

回答：下水道料金の徴収は、市町が行うので、県で直接伝えることは難しい。よって、経営状況を市町に説明し、流域下水道の仕組みなどについて市町を通して、利用者に広報していくことを検討していきたい。

なお、市町と取り組むことは、11ページの第7章「経営状況の見える化と経費負担の適正化」の取組1に位置付けており、これには料金や制度の広報も含まれている。

また、取組2で、財務指標等を公表としているが、そのまま公表しても分かりにくいので、関連市町と連携して、わかりやすく市民に伝えていくことを考えている。

(宇野会長)

質問：今の点に関してもう少し盛り込んでいくイメージか。

(事務局)

回答：流域下水道を説明する章があるので、その中で料金も含めてどこまで記載できるのか、わかりやすく書くことを含め、これから検討していきたい。

(宇野会長)

提案：経営ビジョン自体が広報的な意味を持っていると思う。よって、解説を少し入れることで、今の課題が解決できると思う。

(加藤様)

意見：これは感想であるが、広報と人材育成については、もう少し具体的などころがあった方がよいかと思う。利用者に下水道の価値を伝えることや下水道の魅力が学生に伝えること等について具体的に記載してほしい。

例えば、広報と人材育成の検討チームを作ると書いてはどうか。

(事務局)

回答：検討チームについては、考えたい。

(加藤様)

質問：第6章のP5の財源で、その他収入の内訳を教えてください。

(事務局)

回答：その他収入の主な内容は、一般会計からの繰入金、企業債、補填財源である。

(加藤様)

質問：国庫補助と市町負担は約40%増えているが、その他収入が2%しか増えていない理由は何か。その他収入が県の負担ならば、国と市町に負担を多く求めて、県の負担はあまり上がっていないように見える。

(事務局)

回答：建設改良費が増えているので国庫補助および市町負担が上がっている。よって、県の負担も増えるところであるが、主に県が支出する企業債償還金が、今後減少傾向であるため、結果的には県の負担があまり増えていないと見えてしまう。

(加藤様)

提案：その点について、誤解されないように説明する必要があるかと思う。

また、国庫補助の40%増加はかなりの額で、全額、国庫補助をとれるか心配している。国庫補助が削減された場合に、コストカットできるところがあるか考えた方がよいかと思う。もし事業費を下げるできないのであれば、施策の優先順位も考えなければならないと思う。

(事務局)

回答：国庫補助の削減の対応として、県及び市町負担だけで進める、コストカットするなどの方法があるが、基本的には事業はこの通り進めていきたいので、コストカットの方法を検討したい。

(加藤様)

提案：国庫補助を取得しやすくするために、改築更新だけではなく、新技術の導入など、工夫した方がよいと考える。

(倉橋様)

意見：県民としては、流域下水道における県と市町の役割分担がよく分からない。その中で、経営ビジョンを出して、一般の人がどこまで内容を理解できるだろうか。広報を単純化、明確化することが必要ではないか。また、費用の仕組み、災害について、もう少し分かりやすい説明が必要ではないか。

(事務局)

回答：説明の仕方について、経営ビジョンですべてを説明する難しいので、市町と連携して説明するなど、段階的に進めていくことを検討したい。

(木村様)

意見：県民としては、どうしてお金を払っているのか根本的なところが理解できない部分が多い。地震や大雨の時にどうなるのか、図などで分かりやすく説明していただきたい。今の上下水道の仕組みや災害時の下水道の役割について分かりやすく説明してほしい。

(事務局)

回答：どうすれば分かりやすくなるのか、事務局内で整理した上で、検討していきたい。

(木村様)

提案：県民や利用者の将来人口の変化も合わせて検討した方がよいと思う。

(渡邊様)

意見：資料2のP5の建設改良費が今後増えていくに伴い市町負担金も増えるので、丁寧な説明が必要と思う。説明の仕方としては、単に負担が増えることだけではなく、建設の必要性や維持管理費の削減に努力した結果等を説明しないと納得してもらえないかと思う。

(渡邊様)

質問：資料2のP5の建設改良費については、資料1のP8などの施策内容を盛り込んだ上で、この金額になる理解でよいか。

目標耐用年数で改築した場合とR2年度予算の比較グラフをみると、目標耐用年数で改築すると年平均122億円であるが、様々な施策を行った結果、資料2のP5の建設改良費の85億円程度になるという理解でよいか。

(事務局)

回答：資料2のP5の建設改良費の金額は、改築更新や耐震化等、主要施策の費用を織り込み算定した結果である。

年平均122億円は、目標耐用年数で改築した場合の結果で、そこから、リスクや重要度から改築する施設を厳選した結果、このような金額となった。

(渡邊様)

質問：資料2のP5の維持管理の減価償却費について、R2とR3～R12の平均を比べると減少傾向にあるが、改築更新の進むと減価償却費が増えると思うが、減価償却費が減っている原因は何か。

(事務局)

回答：既存資産の減価償却費が減っているのが原因として考えられる。平成の初期に集中して処理場の整備を行った時の機械設備の減価償却が、今後、終わる影響が大きいと考えている。

(渡邊様)

質問：資料2のP5の建設収入のその他収入には、企業債が含まれていると思うが、建設改良費と国庫補助金の伸びと比べてその他収入の伸びが少ない原因を教えてください。

(事務局)

回答：その他収入のうち、県の起債は、工事費の伸びに応じて増加する。ただ、過去の起債償還金の分を差し引きすると、この結果となる。誤解を与えないように分けて表現したいと考えている。

(渡邊様)

質問：その他収入のうち、一般会計繰入金については、総務省の繰り出し基準の金額を計上しているという理解でよいか。

(事務局)

回答：基本的には繰り出し基準に基づいたものを一般会計から受け取っている。ただし、繰り出し基準の中にも明確できない部分があるため、一部は関連市町と協議を重ねて調整している。

(宇野会長)

意見：その他収入の表現については、企業会計をベースに考えると、補填財源をその他収入と別々に表示しないと分かりにくいと思う。

今後、減価償却費が減っていくとのことだが、投資は大きく増えていく。その影響が10年では見えてこないの、ストマネ計画を反映できれば20年後、30年後のものも示すべきだと思う。

企業債についても、どの程度増加しているのか、残高がどうなっているのか見えにくいと感じるので、起債残高の水準、元利償還金の推移等ストック面の指標を財政指標に加えた方がよいと考える。

また、相模川と酒匂川で、維持管理費の見通しが違うので、酒匂川の維持管理費の増加の理由を少し説明した方がよいと思う。

広報関係について、誰に対して何の広報をするのか、あまり見えない印象を受ける。広報を評価する視点から考えてみると、少し具体化できるかと思う。広報は、本来、体験していただくのが一番効果的と思うが、今はできない状況なので、別のやり方を考える必要がある。

資料2の10ページで、市町と調整して維持管理費の平準化とあるが、平準化に市町がどのように関係するのか。また、緊急財源とは何か。

国庫補助を現状ベースで想定することについて、国庫補助が減るのは経営上一番のリスクであり、リスクが顕在化した時にどうするのかを予め想定していくべきだと思う。仮に国庫補助が従来通りいかなかった場合どうするのか、何を検討しなければならないのかについて、議論した内容を加えた方が現実的な経営戦略になるかと考える。

(倉橋様)

質問：企業債はどういうものか。

(事務局)

回答：県債と同じものである。下水道施設を作る時には、県が借金をして30年間程度かけて返済することとなっている。

(加藤様)

意見：これからは県民に意見をいただくことになるので、下水道処理場がどうなっていくか、生態系はどうなるかをビジュアルに示した方が分かりやすいと思う。財源については、一人、一日いくらという見せ方が、県民に分かりやすいと思う。

(稲垣様)

意見：分かりやすい表現とビジュアル化をお願いできればと思う。これくらい費用をかけるとどんな未来が得られるのか、逆にその費用をかけないと何を削れなければならないのかなどをエンドユーザーの視点で資料をまとめてほしい。

**【5 議事 (3) 今後のすすめ方について】**

意見なし

**【5 議事 まとめ】**

(宇野会長)

意見：今回一番議論に挙げたのは広報のあり方である。流域下水道の仕組みは県民においては理解が難しいため、分かりやすく説明した上でパブリックコメントにも経営ビジョンの最終版にも臨んでいただきたいと思う。人材育成についても、具体的な取組みを入れていただきたい。

財政面について、一番重要なものは国庫補助の確保だと思う。国庫補助が通常通り充当される場合や、国庫補助金が現行通り充当されない場合、どんな優先順位になるかというシナリオも盛り込んで、将来の見える化を行った方がよいと考える。

**【6 閉会】**

○県土整備局 河川下水道部 下水道課 流域下水道グループリーダー